

はいしへばるような姿勢で保存されていたプロトケラトプス

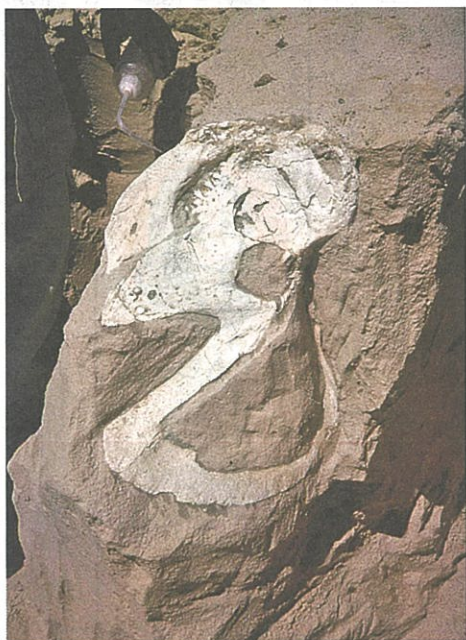
(埋没姿勢のまま)

ゴビ砂漠を調査していると、時々家畜や野生動物の死骸に出会います。死んで間もない死体はおなかのところにガスがたまり、ふくれていきます。無数のウジ虫がわいていることもありま

な跡があったり、どこかで食べるために持っていかれたのか足や首がないこともあります。長い時間がたてば、骨は白骨化し、関節も外れてバラバラになります。

こうした死骸や骨が水に流さ

## す あな 巣穴くずれた？それとも…



真上を向いたまま砂に埋まっていたプロトケラトプスの全身骨格(発掘現場写真)

れて砂や泥と一緒に積み重なり、保存されたものが化石です。だから化石の骨は、バラバラだったり、1本だけだったりが多いのです。

ところがゴビ砂漠の中央部では全身の骨がつながった骨格化石がよく出てきます。しかも姿勢が変です。真上を向いて「ここから出たいよう！」と言っているかのような姿勢や、はいつくばってじっと耐えるような姿勢なのです。それは死んで横たわった姿勢ではなく、生きようと頑張ったままの姿勢なのです。これは何を意味しているのでしょうか？

実はこの地層は、ほかと違って水底にたまったのではな

く、砂丘でできたものだとわかっていきます。砂丘に掘った巣穴に住んでいたところ、くずれてきた砂に埋もってしまったのか？ それともすごい砂嵐に出会って、埋もれたのか？ …なかなか結論は出ません。皆さんはどう思いますか？



変な姿勢で埋もれた化石

岡山理科大学教授・石垣忍



恐竜調査隊が行く

まめ ち しき 豆 知 識

砂丘でできた地層 山から流れ出た川が、砂漠に流れ出るようなところでは、川が干上がってしまします。一方、川が運んできた砂は風で運ばれて砂丘をつくります。土地が低いところには運ばれてきた砂が砂丘をつくりながら重なって砂の地層をつくります。